

平成2年の開園から、ここまで築いてこられた鳴滝園の施設長を引受け、あつという間に新年を迎えてしまい、就任と新年の挨拶が一緒となってしまいました。

ほおの木会に勤務してまだ4年目、しかも3年間は分場にあるデパールで勤務、本園での勤務は1年生、何の縁があつたのでしょうか？しかも施設長やセンター長。

いまも世界や日本、地域社会でも相変わらず激動の連続の中、今年は特に社会福祉法人制度改革に向けて忙しい年になりそうですが、引受けたからには、そこに惑わされることなく、利用者や保護者、法人や鳴滝園（エール、デパール）、職員のため、しっかりと足元を見つめ、いい歴史や現状は継続し、いい施設に進化するために改善・大改革をしながら、着



未来のデザイン

施設長 三輪 治彦

実な歩みを続けていきたいものです。

そこで、まずは誰かが考えてきた未来像を発想の原点にするのではなく、ずっと描いていた自分の想い（未来）を洞察してデザインすることにしました。自分のシナリオやデザインはこうです。

どのような支援があれば、利用者が一人の地域住民として社会に参加し、自分らしい生活を実現できるだろうか、利用者の家族の助け（ゆとりを感じながら自分自身の人生を楽しむ）になるだろうか、利用者も掛け替えのない存在であることを受け止めて、一緒に生きる人がたくさんいる地域をつくれるだろうか、と考えているこの頃です。

そのためにも、「働く（その人らしくあるための仕事や働き立した生活を送る）」「経験す

る（その人らしく生きていくための経験）」という3つを基本的な支援を軸として、たとえ家族がいなくなつたとしても、利用者が「自分らしい暮らしを、暮らしたい地域で継続できる」よう、ずつと寄り添つていただきながら、必要な時に、必要な人に、必要なサービスを提供します。必要なサービスを提供していく、利用者にとって、かけがえのない人生を創り出せるような鳴滝園・エール・デパールでなければと。

もちろん自分の想いだけではなく、みんなの想いがなければ施設は成り立ちませんが、自分の本気度が全てを左右すると感じていますので、しっかりと想い（未来）を描き、それを叶えるために、フレームワークやロジックの構築と合わせ、コツコツと頑張つていけば、最初は小さな光かもしれません、必ず

これは今も継続中です。

自分の抱負は「丈」

毎年、その年の世相を漢字一文字で表す師走恒例の「今年の漢字」が選ばれています。ちなみに昨年は「金」という漢字で、イチロー選手のメジャー通算3,000本安打達成やレスリング・伊調馨選手の五輪4連覇などスポーツ界の「金」字塔、「金」色の衣装を身に着けたピコ太郎さんの『PPAP』などもあり、2000年と2012年に統いて3回目とのことで、利用者にとって、かけがえのない人生を創り出せるような鳴滝園・エール・デパールでなればと。

昨年の初めに鳴滝園分場職員で「新年の抱負」を漢字一文字で表す書き初めをしました。ちなみに自分は、「自分には出来ない・無理など、自分で自分の身の丈（限界）を決めない、あの人には出来ない・無理など、他人に自分の身の丈（限界）を決めさせない」という想いで「丈」という漢字にしました。これは今も継続中です。